

大分県佐伯市（国内 20 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る  
疫学調査チームの現地調査概要（令和 2 年 12 月 10 日実施）

令和 2 年 12 月 10 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境

- ① 当該農場は、山間部の河川沿いに位置し、付近は山林に囲まれている。
- ② 調査時、発生農場に沿って流れる河川及び農場から約 5.0km の距離にあるダム湖ではカモ類は確認されなかったが、農場から尾根を越えた約 2.5km の距離にある別の河川でオシドリ約 200 羽が確認された。
- ③ 当該農場には開放鶏舎が 1 棟あり、肉用鶏が平飼いで飼養されていた。また、当該農場から約 340m、約 2.0km 及び約 4.9km の距離に 3 つの疫学関連農場がそれぞれ位置していたが、発生時、約 2.0km の位置にある疫学関連農場は空舎であった。

2 通報までの経緯

- ① 管理人によると、発生鶏舎における 1 日あたりの死亡鶏は、12 月 8 日までの過去 21 日間の平均死亡羽数は 12 羽で推移していたが、12 月 9 日には 33 羽の死亡鶏が確認されたことから、家畜保健衛生所に通報したとのこと。
- ② 管理人によると、12 月 9 日の死亡鶏は、発生鶏舎内に散在しており、肉冠の異常等は認められなかったとのこと。

3 管理人及び従業員

- ① 当該農場では従業員 2 人が管理を行っており、毎日、鶏舎において鶏の健康観察を行うとともに、死亡鶏を回収していた。
- ② 従業員 2 人は当該農場の他、3 つの疫学関連農場でも管理を行っており、担当する農場は決まっていなかった。出荷作業は、業者が行っていたが、当該農場からの出荷は 1 ヶ月以上前であった。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 管理人によると、従業員は農場専用の作業着、長靴、手袋を使用していた。さらに、鶏舎に入る際、鶏舎内専用の長靴と踏み込み消毒を実施していたが、長靴の履き替えの際に鶏舎内外の動線が交差していた。
- ② 鶏舎横には飼料タンクが設置されているが、当該タンク上部には蓋が設置されており、タンク内への野鳥等の侵入やタンク内の飼料への野鳥の糞等の混入の可能性は低いと考えられた。
- ③ 飼養鶏への給与水は、水道水が使われており鶏舎内の貯水タンクに貯蔵し、鶏舎に供給されている。
- ④ 鶏糞の処理は、オールアウト後に業者に委託して排出していたため、当該農場については、1 ヶ月以上、鶏糞の排出はなかった。
- ⑤ 管理人によると、健康観察時に回収した死亡鶏は、毎日、自農場のトラックにて疫学関連農場にある焼却炉で搬出し、処理していたとのこと。
- ⑥ 管理人によると、オールイン・オールアウトを行っており、オールアウトのたびに鶏舎内の清掃・消毒を行っているとのこと。
- ⑦ 管理人によると、普段より農場敷地内に消石灰を散布し、消毒を行っていたとのこと。ただし、鶏舎は藪により囲まれていた。
- ⑧ 管理人によると、車両が当該農場に出入りする際、農場の入口に設置された動力噴霧器により消毒しているとのこと。
- ⑨ 発生鶏舎の側面は網（マス目は約 2×2cm）とその外側にロールカーテンさらに、換気

扇が設置された面を除き、防鳥ネットも設置されている。

- ⑩ 管理人によると、発生1ヶ月以上前より、ロールカーテンは常に閉めていたとのこと。

## 5 野鳥・野生動物対策

- ① 鶏舎の換気扇が設置された面の壁には破損が確認された箇所が複数あり、小型の野生動物が侵入可能と考えられた。
- ② 管理人によると、鶏舎内外でネズミを見かけることはなかったが、定期的にネズミ対策（殺鼠剤の設置）を行っているとのこと。
- ③ 管理人によると、鶏舎内でスズメ等も小型の野鳥を見かけることはないが、農場内にはカラスやセキレイ等の野鳥が飛来しているとのこと。